

序

当研究所では、平成12年度も教育論文集の刊行を企画して原稿を募集しましたところ、「論説の部」に7編、「実践記録の部」に6編の積極的な応募をいただきました。

「論説の部」では、まず、子供たちが激動の現代社会を生き抜くためには、自己効力感を高めていくことが重要と考え、子供たちの自己効力感を高めるための考察をいただきました。また、本市の6人の外国語指導助手（ALT）がそれぞれの立場から本市の英語教育についての感想、あるいは提案等について述べております。関係者に是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

「実践記録の部」につきましては、学校関係者から、自由な活動を取り入れた授業展開を通して楽しい理科学習を目指した実践、生き方を哲学する子供を目指して心が響き合う子供を育てる道徳教育の実践、コンピュータ使用が共同による調べ学習におけるやりとり及びぼす影響を検証した実践、友人と協力し、地域の人々と触れ合いながら生き方を学ぶボランティア活動の実践、地域の人々との交流を通して地域の一員としての自覚深めることを出発点に「総合的な学習の時間」に取り組んだ実践が紹介されています。また、社会教育関係者からは、現代的な課題に関する学習機会を提供するため、高等教育機関との連携により公民館事業の開設に取り組んだ実践が報告されました。いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきました。これらの論文は、読者の皆さんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も巻末に教育論文集第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者をはじめ、関係各位にお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成13年3月

足利市立教育研究所長

石 川 博 右